コント「家族

北海道札幌北高等学校2年

にすぐ届いた。 今や聞かない日はない声はリビングに入ってきた私の耳

「それなんのやつ? 『強盗』?」

「これは『家族』! サブチャンのコントの方。お姉ちゃ

ん『強盗』見たの?」 い草のラグに寝転んだパジャマ姿の笑実が言った。帰宅

してから着替えた訳ではなく朝からずっとこれなのだ。 「おすすめにあったから見た。私あれ好き」 私と笑実の最近の話題はもっぱらこのお笑い芸人につい

校一年生の私もしっかりとその波に乗っている。 てである。様々な賞レースで優勝し女子高生に大人気。高 「そうなの! あれはそーちゃんのネタが本当に神がか っ

「何、お笑いの話?」

てて……」

視線をやることはない。 一番聞きたくない声が笑実の話を遮った。私がそちらに

「……そうだけど」

たちの父親であるこの男は笑実の手にしていたスマホを覗く笑実の声の温度があからさまに下がる。戸籍の上では私

ああ、このネタあんま面白くないよね

七月序盤、北国とはいえ徐々に暑くなっているにも関わ

らず室温はぐっと下がった。

「なんで売れてるのかわからないんだよなあ……やっぱ顔

ないようだ。娘二人から白い目で見られていることに気づ かずに男は話を続ける。 ガハハと下品な笑い声を上げる男を睨みつけるも効果は

んだよな、第一人生経験がないと面白いネタは書けない 「しゃべくりとコントをどっちもやろうとするのが無謀な

他人を貶す時のこの男はいやに饒舌だ。独自のお笑い

論はSNSでやって大炎上すればいいのにと思う。 「人生ってのはコントなんだよ」

語るその顔面を殴りたい衝動に駆られたことだけは覚えて 言っていたのかも覚えていない。ただ酒臭い息で得意げに い。そう判断した私は何も言わずに部屋に戻った。 いた。これ以上リビングにいると何をしでかすかわからな その後にどう続いたかは覚えていない。その前に何を

何アイツまじで腹立つんだけど」

「まあ好きなものバカにされたらそりゃ腹立つわな」 スティック状のポテトスナックを咥えた目の前の夏セー

ラーが頷く。 ているのは今私の前の席に座っている親友、 以外の何でもないため人にはほとんど言っていない。 のものだ。 父親がお笑い芸人であることは私にとって恥 加賀美琴くら 知っ

「全く売れてないのに何言ってんだか」

「紗笑のパパ、ナイステでしか見たことないかもしれな

その程度のレベルだ。 だけで笑うようになってようやく面白さを感じるような、 ぶ酔いが回った頃に見ると面白い」らしい。箸が転がった たいかにも地方ローカルの番組で、SNSによると「だい だ。二十五時から始まるサッポロ出身のお笑い芸人を集め ナ イステとはナイトステーションという深夜番組の愛称

「そういえばエミちゃんはお元気?」

学校あんま行けてないけど」 「最近はだいぶ落ち着いてるかな。朝がしんどいっぽくて

「センイキンツウショウだっけ。こないだなんかで見た

は知っているが詳しいことはよくわからない。 笑実は 61 痛みが起こる病気で、 『線維筋痛症』という病気を抱えている。 中高年女性に多いということ 全身に

n

「今は薬でなんとかしてるけど……やっぱ辛そう。見てる

こっちがしんどくなってくる_ 「だから医大目指してるんでしょ?」

ている問題はレベル三の基本的なところだ。それなのに間 美琴は私が開いていた数学の問題集を覗き込む。 今やっ

違ってしまう自分が嫌になる。 まあそう。だから数学頑張る

英語も化学も物理も苦手だが、それらを克服しようとい

う気持ちはある。 「紗笑って塾行ってたっけ?」

「行ってない。でも行こうとは思ってる」

近いし新しい。夏期講習の招待プリントをファイルにしま 「なら私んとこおいでよ!」 結構わかりやすいしいいよと言う美琴の塾は学校からも

い込んだところでチャイムが鳴った。

て 「はい、 朝のホームルーム始めます。前の人プリント 回

ての進路希望調査票だった。 線を落とす。美琴から回ってきたそれは高校に入って初め 本鈴と寸分違わず入ってきた担任が手元のプリントに視 他のプリントと同じA4のそ

ず書いて明日の土曜講習か来週の水曜までに出してね」 「まだ仮調査なので固まってなくてもいいです。 がなぜかとても貴重なもののように感じる。 とりあえ